

5, 6年 単元名「ウニの生態や特徴を調べよう」(4時間)

1 単元設定の理由

種差地区では、ウニ漁が盛んである。葦毛崎展望台下や種差芝生地向いの岩場等で、素潜りでウニを獲っている。ウニは食卓に欠かせない食材である。しかし、子どもたちは、ウニのこと、つまり、ムラサキウニやバフンウニの2種類あること、海藻類を食べていること、岩場にいること等、を知らない子が多い。ウニ獲りを生計にしている家庭が1家庭しかなく、ほとんどが祖父母の代で漁業関係は終わっている。海に関わる仕事はしなくとも、ウニのことを他の人に語るができる種差の子どもになってほしいと願う。その意味で、この単元を設定した。

2 単元目標

- ① 模型を参考にしながら、ウニの体のつくりが理解できる。
- ② ウニは何を食べているか、殻割から中を見て判断できる。
- ③ ウニ獲り漁の観察を通して、素潜りで獲っていることがわかる。
- ④ 川や海の栄養、プランクトンの流れ、海流などに関連して、海の栄養の巡りを理解できたか。

3 単元の評価基準

ア：模型を参考にしながら、ウニの体のつくりが理解できる。

イ：ウニは何を食べているか、殻割から中を見て判断できる。

ウ：ウニ獲り漁の観察を通して、素潜りで獲っていることがわかる。

エ：植物プランクトン、リン・鉄分などの栄養循環の仕組みが理解できたか。

4 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1	○ウニの体のつくりを知ろう。	・種差海岸インフォメーションセンター展示のウニの模型から、ウニの体のつくりを理解する。
1 本 時	○ウニの殻むきを体験する。 ・殻を2つに分ける道具 ・身をきれいに取りだす道具 ・食べてみよう	・ウニが何を食べて成長しているのか、殻の中をよく観察させる。(海藻類を)
1	○ウニの生態を知ろう ・	・種苗センターの見学
1	○ウニの赤ちゃんを誕生させてみよう。	・種苗センターの小俣さんの指導のもと、ウニのふ化実験を行う。 ・理科室にて
外部連携 / 教材等 みなと漁業共同組合種苗センター、種差漁業生産部会		